

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2019

課題番号：26284052

研究課題名(和文) 青島・烟台をめぐるドイツ・日本・中国の「文化的記憶」

研究課題名(英文) 1.Cultural Memories of Tsingtau / Qingdao and Yantai in Germany, Japan and China

研究代表者

三宅 晶子 (Miyake, Akiko)

千葉大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：50157608

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,300,000円

研究成果の概要(和文)：中国の青島・烟台を、青島のドイツ租借期(1898～1914)、日本占領期(1914～1922、1938～1945)現代に至る変遷を中心に、コロニアル/ポストコロニアル研究・「記憶」研究・「都市」研究の視点から日中共同研究を行った。研究対象としては、建築・街路・記念碑等の視覚・物質情報、新聞・文学・手記等の文字情報、アンケートなどを扱い、ドイツ・日本・中国の「文化的記憶」の諸相を明らかにした。一般に抱かれているノスタルジックなイメージをかいくぐり、植民地化した側と植民地化された側の認識と記憶の非対称性を提示しつつ、ナショナル・メモリーを検証しトランスナショナル・メモリーの形成の可能性を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一般には青島や第1次世界大戦については、その後の第2次世界大戦と比べるとノスタルジックに回想されることが多いが、本研究では、植民地化された側の当時の理解とその後の記憶の変遷にも焦点を当て、植民地化した側と植民地化された側の認識と記憶の非対称性、忘却されてきた負の歴史も含めて新たな資料と記憶の見取り図を提示することができた。これら日独中のナショナル・メモリーの変遷と交流の見取り図は、「文化的記憶」研究としての比較文化論に新たな貢献をなすものであり、国境を超えるトランスナショナル・メモリー形成の可能性を提示するものである。

研究成果の概要(英文)：This international collaborative research(colonial/postcolonial studies, memory studies, urban studies) focused on the colonial cities Tsingtau / Qingdao in German-occupied period(1898-1914), Japan-occupied period(1914-1922,1938-1945) and Post World War II and Yantai which was in 1858 opened. We regarded these cities as media of memory and researched architecture, streets, monuments, journals, literature, photos, questionnaires etc. and showed cultural memories in Germany, Japan, and China. Considering an asymmetry of understanding and memory between the colonizers and the colonized, we analyzed national memories and showed the possibility of transnational memories.

研究分野：比較文化論

キーワード：トランスナショナル/メモリー ナショナル・メモリー 文化的記憶 コミュニケーション的記憶 イエシュケ記念碑 青島 満州 坂東ドイツ人俘虜収容所

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者 三宅晶子は、基盤研究(C)「戦後ドイツにおける Nation と Erinnerungskultur」で戦後ドイツを対象として Nation のイメージ形成と「想起の文化」について研究を進めてきた。理論的には、Walter Benjamin の Erinnerung, Eingedenken 概念と、Benedict Anderson の「想像の共同体」としての Nation 論、Aleida Assmann、Jan Assmann による Kulturelles Gedächtnis 「文化的記憶」論を検討した上で、戦後ドイツの Erinnerungskultur 「想起の文化」の諸相について研究してきた。本研究では、これまでの研究を踏まえて、青島・烟台という、ドイツ・日本・アジアが交錯するコロニアルな都市を対象に「文化的記憶」を探求することを企図した。ベンヤミンは、パリのパサージュを対象に資本主義発生・展開期の都市の「夢」の形象を分析したが、これら資本と Nation の「夢」は、東アジアの都市（青島は帝都ベルリンをモデルに「理想の植民都市」として建設された）でどのように創り出され、中国の民衆はそこにどう関わったのか。その Bild (形象—イメージ) は、その後、支配者の交替とともにどのように上書き／削除／保存／想起されていったのか。本研究は、この課題に、中国研究の研究分担者、ドイツ研究の連携協力者、中国の研究協力者とともに取り組み、「文化的記憶」の諸相を明らかにしようとするものである。

青島については、日本では、建築学会における日中共同研究、第1次大戦のドイツ人捕虜収容所に関する研究、青島鹵獲書籍研究、経済・港湾都市歴史研究等において研究の蓄積がある。ドイツでは、1998年、租借100周年を機にドイツ歴史博物館で「青島展」が開催され、Webでも公開されている。歴史研究では、ドイツ時代については Klaus Mühlhahn、日本占領期に関しては Wolfgang Bauer らの研究があり、女性研究の分野では、Marianne Bechhaus-Gerst らが、青島における駐在員の妻、看護婦、娼婦などに関する興味深い生活史研究を行っている。また、文学においては、Weijian Liu がドイツ文学に現れた中国像の研究で青島文学についての考察を行っている。これらの先行研究をふまえた上で、本研究では植民地と戦争に関わったドイツ・日本・中国の Nation の記憶の形成とその変遷に焦点を当てて調査・考察を行った。

### 2. 研究の目的

本研究は、中国の青島・烟台という都市を、青島のドイツ租借期(1898~1914)、日本第1次占領期(1914~1922)、第2次占領期(1938~1945)、そして現代に至る変遷を中心に、1858年開港したコロニアルな海港都市であった烟台をも対象として、コロニアル/ポストコロニアル研究・「記憶」研究(アスマン、ノラ)・「都市」研究(ベンヤミンのパサージュ研究)の視点から、日中で共同研究を行い、ドイツ・日本・中国の「文化的記憶」の諸相を明らかにすることを目的とする。

青島・烟台は、占領者の交替、その過程での排斥・抵抗・受容・共存・解放の痕跡を多層的に保持する都市である。この都市を資本・Nation・民衆生活のメディアとして捉え、ドイツ・日本・中国の記憶が出会い、上書きされていく「記憶の場」として注目する。具体的には、都市の街路・建築・記念碑の建設・命名・改名・住替え・記念碑化(2003年より文化財のプレート設置)など物質情報の歴史と、文学・映画・教育等に現れた記憶とその受容、証言の分析、大連・天津など海港コロニアル都市との比較・交通の分析を中心に、日中独の資料を具体的に考察し、イメージの創出・変成・重層を経て形成される「文化的記憶」の諸相を探求する。

### 3. 研究の方法

- (1) 烟台都市調査：旧領事館、連合教堂、日本軍兵営、ドイツ郵便局、砲台調査、档案局での文献調査
- (2) 青島都市調査：・ドイツ建築：総督府、総督官邸、郵便局、教会、ドイツ・アジア銀行、水兵倶楽部

- ・日本建築：青島中学校、高等女子学校、横浜正金銀行、青島取引所、三菱洋行、青島神社跡
- ・記念碑：イエシュケ記念碑跡、烈魄化碧碑、東亜建設之碑、忠魂碑跡
- ・青島市博物館、青島市図書館、毛埠子記念館

(3) 大連都市調査：中山広場近代建築群、満州鉄道等

(4) ドイツ調査：ドイツ歴史博物館、ドイツ国立図書館、ゲオルク・エッカルト国際教科書研究所等

(5) 徳島調査：坂東ドイツ人俘虜収容所関連施設、眉山ドイツ人捕虜墓碑

(6) 文献調査：ドイツの風刺雑誌、絵画、絵葉書、教科書等の調査

第1次世界大戦青島出兵従軍兵士S氏（長野県出身兵士）「日独戦役日記」大正4年

日高六郎『戦争のなかで考えたこと』筑摩書房 2005. 中国人元労働者強制連行訴訟最高裁判決等

文学：蕭軍、蕭紅、老舍、聞一多、莫言等の作品

(7) アンケート：煙台大学人文学院・メディア放送学科でアンケート実施

(8) 研究会開催：千葉大学での研究会に中国の魯東大学・烟台大学の研究者らが参加

「満州国」文学研究会での研究発表（2018年 東京外国語大学）

日本比較文学学会全国大会でのワークショップ（2019年 北海道大学）

#### 4. 研究成果

- (1) 三宅晶子：「記憶メディアとしての都市」青島と坂東：①ドイツの絵葉書・歌・教科書等を分析し、青島へのコロニアルなまなざしのあり様を分析した。②ドイツ人による「模範的植民都市」の建設と日本人による上書き、現代中国における記憶の表示を地図・記念碑・建築・街路樹・桜・絵画（金歩松）等によって考察した。③坂東俘虜収容所について、ドイツ人俘虜が作成した地図に見られる植民都市 Tsingtau の ironisch な想起（統治の逆転を意識化する命名）を考察した。また、戦後、1人の「引揚」女性による私的共感的想起を起点として、日独のコミュニケーション的記憶の復活、そして次世代への継承へと至るプロセスを検証した。坂東では、ドイツ人以外の俘虜が収容された分置所だった成就院（通称中寺 現存せず）の跡地を確認し、地域住民への聴き取りから、当時の記憶を伝える記録が集会所の額に掲げられ、地域住民によって受け継がれていることが明らかになった。

共栄自治会集会所「成就院（中寺）史跡の沿革」の額 2018年10月27日 三宅撮影

「（中略）

一、大正六年四月

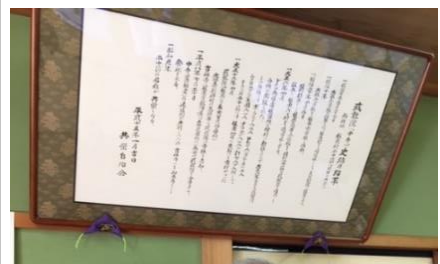
ドイツ兵俘虜収容所が檜村に新設されたが、大正六年七月この成就院に分所が開設された。

この施設には、ポーランド人三人、ロシヤ人（ユダヤ系）二人、ルクセンブルグ王国人一人、オランダ人一人の計七人が入所した。

そのため西中筋には坂東地区で先駆けて電灯がついた

（中略）

平成十五年吉日」



青島の記念碑については、ドイツ人が建設したイエシュケ記念碑跡地を調査し、その後の日本人・中国人による改変と破壊について文献調査し、日本比較文学学会にて発表した。青島市博物館にて第1次世

界大戦期の日本兵の中国人への加害を記した「烈魄碧化碑」発見し、また、第2次世界大戦期の「大東亜建設之礎」を調査した。

**烈魄化碧碑 1914**

↓ 日本軍青島占領時青島閩家出身の妊婦（袁氏）が被った悲劇を伝える碑

以下の写真は三宅撮影 青島市立博物館 2019. 3. 28



←東亜建設之礎 説明プレート

**「東亜建設之礎 板垣征四郎謹書」1941**



説明プレート ↑

「板垣征四郎（1885-1948）日本戦犯。48年国際軍事法廷の判決で絞首刑に処せられる。

1938年1月、板垣征四郎率いる日本軍第五師団青島侵入。在青島の日本人がその功績を顕彰してこの碑を建立した。表の書は板垣が書いた。・・・  
1983年貯水山公園付近の地下で発見され、青島市博物館に移された。」

←記念碑裏面の碑文

「（板垣）兵团（昭和十二年）七月七日・・・」（ ）内の文字は削られている「昭和十六年七月 青島市広島県人会」

(2) 橋本雄一：東北から青島へ移動する作家たち

の作品を通して文学と植民地について考察した。「抗日戦争」（「日中戦争」）前夜の1934年、「満洲国」下の故郷ハルビンから大連を経て青島へ脱出する中国東北の作家、蕭軍や蕭紅は青島からさらに上海に至り、東北で何が起きているのかを告発する小説『八月的鄉村』『生死場』を執筆した。1936年には、青島において代表作の一つ『駱駝祥子』（ラクダの祥子）を執筆する老舎らがいた。このような漂流し生活する近代作家たちはドイツ・日本植民地の間隙期に青島をどう体験し、この地で自分の文学世界と同時代の社会とをどう縫い合わせようとしたのかを検証した。また、山東半島は日本植民地や内地に中国人労働者を「供給する役割」も担っていた。当時の社会メディアが伝えるこうしたゾーンの歴史性、中国人側から見る「断続的植民地都市」青島の歴史性と「国際」性、背後の文化問題を考察した。

(3) 須藤温子

ドイツ風刺週刊誌や Hermann Knackfuss の絵画” Völker Europas wahret Eure heiligste Güter!” (1895)とそのパロディなどに描かれた中国イメージの変遷と時代背景を分析した。

(4) 朴銀姫：「植民地」下青島の中国人のドイツ・日本への視線：日独の「植民者」の記憶からは忘却されてゆく「被植民者」側の記憶に焦点を当て、植民地下青島において中国の人々はドイツ・日本、そして

「青島」をどのように見ていたのかを当時のメディアから考察した。

(5) 李文哲：烟台大学の学生たち（人文学院・メディア放送学科）を対象にアンケート調査を実施し、若い世代においてドイツと日本、「植民地」下青島に対するイメージがどのように形成されているかについて分析し、メディアや教育の影響を考察した。

最後に、本研究により明らかになったドイツ・日本・中国の植民地化と文化的記憶の関係を図示する。

**青島をめぐるドイツ・日本・中国の文化的記憶**

青島		日本
ドイツ	1898 「模範植民都市」建設 キリスト教の布教・教育	
日本	1914 日本化 神社・忠魂碑	日本の俘虜収容所で 坂東：ドイツ人捕虜による自治的「都市」建設 収容所地図に見る青島の ironisch な想起：「信号山」、Tapautau、「租借地」
中華民国	1922-1938	
日本占領	1938-1945	眉山：アジア太平洋戦争下：同朋の慰霊 同盟国ドイツ兵士の想起と慰霊
中国	1945 解放と上書き 国民党政府 共産党政府 文化大革命	ドイツ人捕虜による想起「バンドー会」
	日本人による建築の消去 神社・忠魂碑の破壊	引揚者/シベリア抑留者による私的想起と追悼
	ドイツ建築の可視化 異国情緒の文化資本化	↓ 日本・ドイツの <b>&lt;コミュニケーション的記憶&gt;</b>
	日本建築の記録保存 後景化	↓
	抗日の可視化 5・4運動の炎のモニュメント	↓ 集合的記憶の形成
	植民地化の記憶 「勿忘国恥」(砲台址公園)	

歴史を想起し文化財を保存し継承

第3世代による記憶の継承

**<文化的記憶>**

**national memory**

**<文化的記憶>**

負の記憶

(植民地化の対象であった中国の忘却?)

加害の記憶

記憶のケア

**Transnational memory** の形成へ ← 比較文化研究の役割

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 三宅晶子	4. 巻 349集
2. 論文標題 ドイツはナチズムの過去をどのように想起しているか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イメージとポリティクスIII 千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅晶子	4. 巻 349集
2. 論文標題 ベンヤミンの〈想起〉と私たち	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イメージとポリティクスIII 千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅晶子	4. 巻 3315号（11月5日）
2. 論文標題 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン』書評	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 読書人	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 1巻12号
2. 論文標題 〈樹じたい〉 フランク・ザッパ、李白～覚醒と美のフロー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pieria	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 1巻22号
2. 論文標題 “眼線”と“声音”はハルピンをどう体験したか 中国人作家爵青あるいは音楽団体口琴（ハーモニカ）社の作法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『総合文化研究』東京外国語大学総合文化研究所	6. 最初と最後の頁 92-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 10号
2. 論文標題 覚醒と美のフロー、やがて抗熱のち咲笑 ~フランク・ザッパのレコードを抱えて走る~	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『peria』東京外国語大学出版	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤温子	4. 巻 68
2. 論文標題 楽園からの追放 ヴェーザ・カネッティの『亀たち』とオーストリア併合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本大学芸術学部紀要	6. 最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅晶子	4. 巻 206
2. 論文標題 教科化される「道徳」における「良心」と「畏敬の念」 「宗教的情操の涵養」からの歴史を検証しつつ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JP通信	6. 最初と最後の頁 9 - 10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 9
2. 論文標題 今日の音を <声> にすべく 今日の夕焼けに間に合え	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 peria (東京外国語大学出版会)	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 21
2. 論文標題 編集後記 (エッセイ)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『総合文化研究』 (東京外国語大学総合文化研究所)	6. 最初と最後の頁 122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤温子	4. 巻 66
2. 論文標題 エリアス・カネッティは何語で泣いたか 母語にして迫害の言語とユダヤ性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本大学芸術学部紀要	6. 最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 2016春号
2. 論文標題 "Straight, No Chaser" の道 (タオ)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 peria	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 須藤温子	4. 巻 114号
2. 論文標題 戦後オーストリアによる忘却と称賛 亡命作家ローベルト・ノイマン、ヴェーザ・カネッティ、エリアス・カネッティを例に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書『ウィーン1945-1966 オーストリア文学の「悪霊」たち』	6. 最初と最後の頁 75-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤温子	4. 巻 64
2. 論文標題 「わたしはいかなる死も認めない」 エリアス・カネッティの死生学	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本大学 芸術学部紀要	6. 最初と最後の頁 75-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅晶子	4. 巻 45
2. 論文標題 「教科化」に向かう「道徳」 その超越的価値観の系譜 「宗教的情操」から「畏敬の念」へ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本教育法学会年報「戦後70年と教育法」	6. 最初と最後の頁 96-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅晶子	4. 巻 58
2. 論文標題 書評：クリスチャン・ヨブケ『ヴェール論争 リベラリズムの試練』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 比較文学	6. 最初と最後の頁 147-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 5
2. 論文標題 自分たちの側が始めた戦争と植民地のなかに立つ他者	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 韓国誌（日本語訳）『いま、ここ - それを越えて』	6. 最初と最後の頁 49-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 0
2. 論文標題 中国という言語空間から考える - アウターな言語のいのちのなかで 他者 になる自分へ -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 共著『多文化社会読本 - 多様な世界、多様な日本 -』（長谷部美佳、青山亨など編）、東京外国語大学出版会	6. 最初と最後の頁 80 - 98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 0
2. 論文標題 清志郎、原発、お月さま	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 共著『日本をたどり直す29の方法 - 国際日本研究入門 -』野本京子・坂本恵編、p130-132、東京外国語大学出版会	6. 最初と最後の頁 80 - 82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 0
2. 論文標題 幸徳秋水と現代世界 - 戦争、庶民、アジア -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 共著『日本をたどり直す29の方法 - 国際日本研究入門 -』野本京子・坂本恵編、東京外国語大学出版会	6. 最初と最後の頁 130 - 132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 春
2. 論文標題 "Straight, No Chaser" の道タオ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 peria	6. 最初と最後の頁 14 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅晶子	4. 巻 2
2. 論文標題 「帝国の想起」と「資本の夢」 ヴァルター・ベンヤミン 『1900年頃のベルリンの幼年時代』 『パサー ジュ論』における〈想起〉	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 比較文化研究	6. 最初と最後の頁 1 - 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三宅晶子	4. 巻 vol42-6
2. 論文標題 『私たちの道徳』の「私たち」とはだれなのか	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 131-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅晶子	4. 巻 123
2. 論文標題 独裁と愛国心はいかにつくられたか	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 女も男も	6. 最初と最後の頁 58-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 2015春
2. 論文標題 レンとアイの小説 -ヨモギの葉を練りつつ横断せよ	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 peria	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤 温子	4. 巻 別巻 1
2. 論文標題 エリアス・カネッティの『耳証人』とキャラクターの系譜学	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 ASPEKT 高橋輝暁先生定年退職記念文集I 日独文化論考 別巻 1	6. 最初と最後の頁 269 - 289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤 温子	4. 巻 第19号
2. 論文標題 反復し再来しつづける無気味なもの 異界 大野寿子編『超越する異界』によせて	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 ヘルダー研究 (ISSN 344-3216)	6. 最初と最後の頁 141 - 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤 温子	4. 巻 -
2. 論文標題 カネッティの贈りもの	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 日本独文学会HP掲載コラム「文学コラム」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 三宅晶子
2. 発表標題 「記憶メディアとしての都市」青島・坂東
3. 学会等名 日本比較文学会第81回全国大会ワークショップ「青島をめぐるドイツ・日本・中国の文化的記憶」（北海道大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 植民地青島へ越境する言語 時間と地理への往来あるいは中国東北～山東半島からみる
3. 学会等名 日本比較文学会第81回全国大会ワークショップ「青島をめぐるドイツ・日本・中国の文化的記憶」（北海道大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 移動・移住という生存と円環のかたち 大陸東北植民地そして「万宝山事件」をめぐる
3. 学会等名 李光平写真展「植民地朝鮮から「満洲」に渡った朝鮮人」、会場：高麗博物館（新宿）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三宅晶子
2. 発表標題 「記憶メディアとしての都市」青島：都市構造の変化と「文化的記憶」の諸相 ドイツ・日本による「租借」・占領と中国
3. 学会等名 「満洲国」文学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 「断続的」植民地期の青島と東北 ～1920年代のひと、言語、メディア言語の往来～
3. 学会等名 「満洲国」文学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤温子
2. 発表標題 ハートの争奪戦『ウンディーネ』とその系譜
3. 学会等名 日本大学芸術学部シンポジウム「ハートの図像学 イメージからテキストへ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 中国の図書館体験の苦勞と楽しさ
3. 学会等名 国際カンファレンス座談会@「東アジア歴史文化資料へのアクセス」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤温子
2. 発表標題 「水の女」は泣いたか 『ウンディーネ』『人魚姫』『漁師とその魂』における魂の獲得と放棄について
3. 学会等名 日本独文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三宅晶子
2. 発表標題 記憶メディアとしての都市：青島・烟台
3. 学会等名 科研「青島・烟台をめぐるドイツ・日本・中国の文化的記憶」研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 植民地のあいだを移動するー東北～遼東半島～山東半島にかんする「文学」表徴の例
3. 学会等名 科研「青島・烟台をめぐるドイツ・日本・中国の文化的記憶」研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 須藤温子
2. 発表標題 ドイツ風刺週刊誌が描いた膠州湾租借地 「模範的植民地」のイメージと言説の変遷
3. 学会等名 科研「青島・烟台をめぐるドイツ・日本・中国の文化的記憶」研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 須藤温子
2. 発表標題 楽園からの追放 ヴェーザ・カネッティの小説『亀』とオーストリア併合
3. 学会等名 カネッティ研究会
4. 発表年 2016年



1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 移動という抗い、円環する困難 - 孫春日教授報告へのコメント-
3. 学会等名 シンポジウム「植民地を移動した 在満 朝鮮人の生活と抗日 その記憶と痕跡を移民史・オーラルヒストリーでたどる」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三宅晶子
2. 発表標題 道徳教育の歴史的分析 道徳教育の新保守主義的動因
3. 学会等名 日本教育法学会 シンポジウム「道徳教科化の教育的検討」(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 自分たちの側が始めた戦争と植民地のなかに立つ他者
3. 学会等名 国際シンポジウム「第二次大戦終結70周年 近代アジア各地域における主権回復の精神」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 須藤温子
2. 発表標題 戦後オーストリア文学による忘却と称賛 亡命作家ローベルト・ノイマン、ヴェーザ・カネッティ、エリアス・カネッティを例に
3. 学会等名 日本独文学会 シンポジウム「ウィーン1945-1966 オーストリア文学の「悪霊」たち」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 三宅晶子
2. 発表標題 青島をめぐるドイツ・日本の文化的記憶
3. 学会等名 科研「青島・烟台をめぐるドイツ・日本・中国の「文化的記憶」」研究会
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 新中国の抗日ヒロイン映画「中華女兒」について
3. 学会等名 ミニシンポジウム「アジア映画における身体、イメージ、壁」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 植民地都市大連と青島 交通する地理、ひと、言論
3. 学会等名 科研「青島・烟台をめぐるドイツ・日本・中国の「文化的記憶」」研究会
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 1919年ごろの大連・中国語新聞『泰東日報』 都市空間からの対日言説
3. 学会等名 神奈川大学 非文字資料研究センター 租界班第43回研究会
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 眼線と声が運動する都市空間 - 植民地ハルピンは中国人の文芸や音楽にどうアプローチされたか -
3. 学会等名 国際シンポジウム「植民地主義と文学」（第10回。韓国民族文学研究所と済州大学の共同主催）
4. 発表年 2014年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 橋本雄一（共編著）金富子・中野敏男・飯倉江里衣共編著、李光平 写真	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 185
3. 書名 「満州」に渡った朝鮮人たち 写真でたどる記憶と痕跡	

1. 著者名 須藤温子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 376
3. 書名 エリアス・カネッティ 生涯と著作	

1. 著者名 橋本雄一（共著）木之内誠・平石淑子・大久保明男	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 大連・旅順 歴史ガイドマップ	

1. 著者名 須藤温子、大島尚子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 83
3. 書名 聞いて話そうドイツ語レッスン	

1. 著者名 橋本雄一（共著）、長谷部美佳・青山亨他編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 264
3. 書名 多文化社会読本 - 多様な世界、多様な日本 -	

1. 著者名 橋本雄一（共著）、野本京子・坂本恵編、	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 日本をたどり直す29の方法 - 国際日本研究入門 -	

1. 著者名 橋本雄一（共著）、柴田勝二・加藤雄二編	4. 発行年 2015年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 295
3. 書名 世界文学としての村上春樹	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	橋本 雄一  (Hashimoto Yuichi)  (30305403)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授    (12603)	
研究 協力者	朴 銀姫  (Piao Yinji)	魯東大学	
研究 協力者	李 文哲  (Li Wenzhe)	烟台大学	
連携 研究者	須藤 温子  (Suto Haruko)  (70531888)	日本大学・芸術学部・教授    (32665)	